

首相が聞く耳持たなくても

警備員

(大阪府 64)

多くの国民が反対し、安

倍晋三首相本人が「国民の理解が進んでいる状況ではない」と認める安全保障関連法案が参院で審議入りした。衆院での採決は、数の力を頼みとした与党が国民の健全な意識を無視し憲法をも軽視する暴挙である。

天皇の統帥権を振りかざし、帝国議会を無視して独走した軍人らによって、大日本帝国は1945年に破壊した。歴史から学ばない国家は滅びると言われる。統帥権を錦の御旗にして国家を滅ぼした軍人と、聞く

耳を持たない安倍首相とが類似していると思うのは私だけではないと考える。

18日、大阪市の扇町公園であった「戦争法案反対」の集会に行くと、若者も多く参加しており危機意識を感じた。今の若者は理路整然と聴衆に訴え、我々の学生運動の頃とは違うと感じる。自由に意見が言えて希望が持てる、戦争に駆り出されることがない社会を我々は子どもたちに譲り渡す責任を負っている。一人ひとりが「安保法案を撤回せよ」と声を大きくし、廃案に向けた行動を起こすことが、今なすべきことだ。